

教職課程 情報公開

- 教員養成の目標・目標を達成するための計画
人間的魅力にあふれる音楽科教師
教職課程の各年次における目標

- 教員養成に係る組織
組織図

- 教員養成に携わる専任教員が有する学位及び業績・担当科目
教職課程教員一覧

- 教員養成に係るカリキュラム・シラバス
教職に関する科目一覧

- 学生の教員免許取得状況
教員免許取得状況

- 教員への就職状況
採用試験合格実績（教員採用状況）

- 教員養成の質の向上に係る取り組み
教員採用試験対策講座、教職支援室の取り組み

○教員養成の目標・目標を達成するための計画

人間的魅力にあふれる音楽科教師

本学の教職課程では、建学の精神に基づき私立大学として個性的な教育・研究活動を展開しながら、開放制教員養成の考え方にしたがって「幅広い教養と社会的視野の広さとともに、高度な音楽的能力を身に付けた、学校・地域における音楽文化の発信者たりうる人間的魅力に満ちた教員の育成」を教職課程の理念としています。

その理念を具体化するために、音楽学部の専門教育による深く高度な音楽的能力と創造性の育成を前提に、教職課程においては教員の資質として必要な次の 3 つの力を培うことを目標としています。

- 1.演奏会、発表会その他のさまざまな自主活動や社会体験を通じて他者との共感能力、協働性、責任感、企画力や実行力を培うこと。
- 2.教育諸学の最先端の成果や理論を教育現場での具体的実践につなげ、高い教職専門性に裏打ちされた指導力を培うこと。
- 3.生涯を通じて音楽と人間・社会について児童・生徒、同僚、地域社会と学びあえる豊かな人間力を培うこと。

教職課程の各年次における目標

本学の教職課程における「教職に関する科目」の履修は 2 年次からであり、各年次において到達すべき目標は次のようなものです。

- 2 年次・・・音楽教科に関する専門・実技の学びを深めながら、「教職入門Ⅰ」「教職入門Ⅱ」によって教職の意義、使命、教員の職務についての理解を深め、自らの適性や教職課程を選択する意味について内省出来るようにする。また一方で、教育の基礎理論から最新の教育事情まで幅広く学び、教育と社会の関わりとその中での教員の在り方について理解を深め、教員以外の進路も視野に入れた進路像とそのため自らの課題を明確にする。
「教育学概論Ⅰ」や「教育心理学」の履修により教育に関する基礎理論の学習を通じて、人間観・社会観・教育観を深めながら「教育課程論」において教育課程の編成や授業作り・指導法に関する基礎理論等を身につける。
- 3 年次・・・音楽の専門実技における資質・能力を一層高めることを重点にしつつ、「音楽科指導法Ⅰ」や「生徒指導論Ⅰ」の学習を通じて、教科担任・学級担任としての知見や基礎的能力を身につける。また、この時期に教職への志向について自らの適性を再度振りかえり、教育実習に臨むか否かを判断する。
「音楽科指導法Ⅰ」に続く「音楽科指導法Ⅱ」の学習を通じて、教科指導のための基礎を確立するとともに、本学教職課程の特徴の一つである「音楽科指導法 A」の選択科目を履修し、教科教育におけるより一層の専門性と実践的指導力を身につける。併せて「道徳教育論」や「青年心理学」の学習を通じて自らの人間観・社会観を鍛えるとともに、具体的な指導力を身につける。
- 4 年次・・・最終学年として音楽の専門分野の学習を一層深めつつ、充実した教育実習を行うことを中心的な目標とし、「教育実習の指導」、「特別活動の指導法」、「生徒指導論Ⅱ」を通じて、

より具体的な生徒との接し方、教員としての立ち居振る舞い、学級経営に役立つ理論と方法を実際に現場で「使える」能力を身につけ、「音楽科指導法 B」を通じて、教育実習やその後の教員として必要な専門性を高める。

音楽の専門教育の総仕上げとしての卒業試験・卒業制作に打ち込みつつ、「教育実践演習（中・高）」において教職課程の総仕上げとしてこれまでの学修を振り返り、教員としての自己の補充課題を発見し、教員免許取得に値する資質・能力を完成する。

○教員養成に係る組織

組織図

